

日本環境安全事業ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会
東京事業部会議事要旨(案)

J E S C Oでは、平成22年9月29日（水）に専門の知識と経験を有する学識経験者で構成されるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会（主査：永田勝也 早稲田大学理工学部教授）を開催し、東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について報告し、審議検討をいただきました。

検討の概要

（1）東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について

事務局より資料に基づき、平成22年度上半期における操業状況、環境測定結果、設備改善状況及びトラブル発生状況等について説明を行った。主な意見は以下のとおり。

○操業状況について

- ・PCB処理量に変動があるときは、説明を加えること。

○PCB排気濃度の上昇及び改善対策について

- ・スクラバー油の濃度管理はデータを取って、排気の濃度状況に応じた管理を検討すること。

○冷却器の閉塞対策について

- ・らせん方式でなく二重管方式でも冷却能力に問題がないことの確認を行なうこと。

○液中切断槽廃液の漏洩について

- ・施工内容に相違があったことは重要であり、第三者に不安を与えることとなるので現場検査を怠らないこと。

○作業安全衛生状況について

- ・切削加工等の作業時については、PCB濃度だけではなくDXNs濃度も留意が必要である。

○ヒヤリハット活動について

- ・分類「有害物質との接触」については、フォローに努めること。また、当部会にも報告すること。